

平成 22 年度第 3 回みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会 議事録	
開催日時	平成 22 年 11 月 26 日（金）午前 9 時 30 分から 11 時 45 分
開催場所	緑区役所 2 階 第一会議室
出席者 （敬称略）	村井祐一（委員長）、柳下利一（副委員長）、松岡美子（副委員長）、市木智子、松浦正義、中島光明、吉田英二、鈴木正二、小林伸子
欠席者 （敬称略）	長嶋昭美
議 題	(1) 第 3 回地区別計画策定委員会について（報告） (2) 第 2 期計画素案及び意見募集について（検討） (3) 第 2 期計画の推進体制等について（検討） (4) その他
資 料	(1) 次第 (2) 資料 1 委員等一覧 (3) 資料 2 第 3 回地区別計画策定委員会開催一覧 (4) 資料 3 地区別計画策定委員会通信 No. 3 (5) 資料 4 第 2 期計画素案（案） (6) 資料 5 第 2 期計画素案の意見募集について (7) 資料 6 第 2 期計画の推進体制等について
決定事項	<ul style="list-style-type: none"> 第 2 期計画素案については一部の修正を行なった上で確定し、区民への意見募集を行なうこととします。 第 2 期計画の推進については、案のとおり実施することとします。
議 事	<p>1 開会（事務局）</p> <ul style="list-style-type: none"> 定数確認 <p>2 議事（委員長）</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員長挨拶 <p>（村井委員長）地区別計画の全体像が明らかになり、またそれを受けまして素案という形で皆様の前に出てまいりました。これから地域の方々のさまざまなご意見をいただきながら、最終的な計画へと完成させていくということになります。関係各所、事務局の皆さん、委員の皆様、地域の皆様には非常な努力、沢山のお力を頂きましてこの計画ができあがりましてを喜ばしく思います。ただ、このようなものを作ることが目的ではなく、計画を進めること、結果を出すことが一番の重要な目的でもありますので、進めるというものの中で出てくる結果、またその進めた結果として出来上がる地域の力、つながりといったものを、具体的な目標にしながらこれからもがんばっていきたいと思いますので、本日もさまざまなご意見、そしていろいろな事例やお気づきの点がありましたらぜひコメントをいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>(1) 第 3 回地区別計画策定委員会について（報告）</p> <p>第 3 回地区別計画策定委員会の開催状況について、資料 2 及び資料 3 に沿って事務局から説明 （説明概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> 区内 11 地区において、計 12 回（東本郷地区での第 4 回委員会を含む）、延べ

165人の委員が参加

- ・ 委員会での検討内容を掲載した「通信 No. 3」について、各地区の連合自治会を通じて班回覧を実施

(村井委員長) 各地区の通信には、ひとつひとつのような話し合いが行われたのか、どのような方向性が示されたのかといった内容が掲載されています。地域福祉の本質からしますと、生活レベル、生活圏域レベルでのある程度の問題発見、問題解決、そのような仕組みを作っていくことが効果的な展開方法論であることがわかってきています。これまでの経験から言いますと、小学校圏域単位での議論というものが本質的には顔の見える声の届く範囲といわれています。その貴重な第一歩として、いままで緑区の場合は地区計画という形で策定したことはなかったのですが、今回は中学校圏域、連合自治会圏域ですが、より地域に密着した圏域での話し合いというものが出来上がり、参加された方々が実際に生活に密着した問題を話し合われた中で、計画的に地域でどのように進めていくかと話された結論としてこのような結果が出ています。これは地域の声そのものかと思いますので、これを根拠に地域の中での福祉推進体制を充実させていただきたい、そのような取り組みを私たちも支援していきたいし、さまざまな情報交換もきっかけとして作っていかれたらと思っています。本日の議題でも推進ということが課題となっておりますが、すべて目標がなければ改善も行われなし、推進も行われませんので、一つ一つのこのような具体的な目標を、具体的な結果として実現していくことを進めていきたいし、その中で素晴らしい取組をPRしていきたいと思っています。また特にポイントとして、地区単位で見ること重要ですが、地域に共通して起きている問題としての視点、緑区全体の総合的な課題として認識することができますので、地区だけの問題ではなく、緑区としての課題、もしくは強みとしても見ていただきたいです。こんなことを頑張ろうとしている、力がある、強みがあるということ、つまり弱みを問題であるだけでなく見るよりも、地域にはこんな強い動きがあるのだ、力があるのだ、だからこの力を支えていこう、育てていこうという視点で、計画を見ていただければ大変ありがたいかと思えます。この芽というか、小さな火、もしくは少し大きくなってきた火を消さないで強い力として盛り上げていくということも考えていけるかと思えます。

(2) 第2期計画素案及び意見募集について

資料4及び資料5に沿って、第2期計画の素案と、区民に対する意見募集について事務局から説明

(説明概要)

- ・ 素案の意見募集を平成22年12月20日(月)から平成23年1月31日(月)まで実施
- ・ 素案の内容は、A3両面1枚の資料と、A4サイズの冊子、及び緑区ホームページで公表
- ・ 素案の構成は、地区別計画策定委員会で策定した「地区別計画」と、みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会で検討した「区計画」の順で掲載
- ・ 意見募集後の本冊子については、レイアウト等の編集を行なう予定

(村井委員長) 2つのポイントがあります。素案全体に対してと、第3章の区計画に

掲載されている基本目標1～5に関しては、委員からの意見を頂く必要があります。まずは全体に対するご意見をお願いします。

(市木委員) 全体の印象として、これなら読む気になる、第1期計画と比べてとても読みやすくなっている、見やすくなっている、興味をひくものが形になっていると感じました。細かいところですが、いくつかの誤植の修正をお願いします。また、地域ケアプラザの紹介ページで、施設の住所を案内していただければと思います。施設がどこにあるのか探しにいこうという方が出てくるかと思いますが、情報として掲載していただければと思います。

(村井委員長) より使いやすい、より読みやすいということに対する提案を頂きました。どのページにどの情報が掲載されているのか、案内することがいいかと思えます。例えば、住所や連絡先は○ページの「問い合わせ先」に掲載、というコメントがあるといいかと思えます。

(松岡委員) 各地区のページに掲載してある、参加された委員の役職名やお名前について、地区毎にばらつきがあります。少し違和感がありますので、可能であれば統一できないかと思えます。

(村井委員長) 地域で頑張ってくださった方がご自身の名前を使っていいよと、できれば名前と所属がセットになっていけば一番いいのですが、ご本人の判断や地域の意向というところをくみ取ると、中には名前を書かれると「そこまでは」と言われる方もいらっしゃるかと思えます。できれば名前を掲載していただきたいという思いは私としてもあります。例えば、この地区別計画に参加していただいた委員名簿を巻末につけることができれば、地区のページには不要ですが、巻末につかないとなれば、地区のページにできる限りお名前を入れていただけないかと思えます。最終的には地区の意向ですのでそれを最優先にいただければと思えますが、委員から見やすさというところでの指摘もできていますので、ぜひご検討をお願いします。また、地区別計画のレイアウトは各地区の確認を受けているということで変更や修正はあまり考えていないということでもよろしいかと思えます。それでは基本目標を確認していきたいと思えます。いわゆる「計画」の作成というと、より具体的に、より役割を明確に、となっていくかと思えますが、この「計画」というものは、スローガンをたててしまうと反省しかできませんが、具体的な目標値を設定すると評価ができます。評価と反省では軸が違います。後ろを振り返っていろいろと述べて反省することは誰にでもできますが、具体的な評価をするためには、具体的な数値でない具体的なズレとか状況とかが評価できませんので、そのような意味では、掲載ページでの文字が多くなってしまうのも致し方ないですし、具体性が少しでもあるのではないかと思われれます。それでは基本目標1「つながり」です。左側のページのうち、共通課題等については各地区から寄せられた実態であり、共通性の高いものが並べられていることだと思います。キーワードについては私たちでチェックができる項目かと思えます。

(基本目標1について)

(村井委員長) 区役所の取組を見て思うことは、事業企画と事業評価をしていく際、企画書の中に、この5つの基本目標を組めるかどうかという検討を必ず行なうということ、評価を行なう際にもこの5つの基本目標について少しでも検討ができたか、取り組むことができたか、という評価項目を入れ込むこと、チェックシー

トのようなものでもかまいませんので、そのような対応を行なっていただければと思います。

(松岡委員) 本冊子についてはデザイン業者にお願いするということですが、基本目標のページの左側の項目について、「第1期計画での取組」から今期の取組、そして「目指す姿」ということだと思いましたが、全ての項目が並列の関係にあるように見えてしまいます。まずは、第1期計画での取組があって、課題があり、「キーワード」そして「目指す姿」との流れかと思えます。あと、「第2期計画での具体的な取組」の欄について、「取組」の丸印が表面にできるように記載を工夫したほうがいいのかと思いました。さきほどの地区別計画での委員の名前の表記についてですが、地域でこれだけの方がかかわって、この計画ができたということ、名簿の形で名前を表示したほうがいいのかと感じました。地域の方がこの冊子を手にしたときに、「地域のこのような方々がかかわってくださったのだな」ということがわかると、この計画がより身近に感じられるのではないかと思います。地域の方々が作り上げた計画ですし、今後、地域にお返しするものだと思いますので、地域の方々と一緒に頑張っていこうという意味では、委員の名前があったほうがいいのかと思いました。

(村井委員長) この地区別計画は、住民の力を借りてつくっていること、また、住民の行動計画であるともいえます。かかわっている人たちの名前が載るということは、ご本人にとっては自分の名前が掲載されている計画であり、推進者としての責任もあるけれど、ご本人の意見がこの計画に反映されているという今後に向けての期待感が出てくるころでもあります。そういう意味で私もぜひ何らかの形で多くの方々の名前が沢山出てくる計画であればありがたいと思います。

(松浦委員) 「キーワード」欄に「自治会を中心とした「つながり」という言葉がありますが、「具体的な取組」欄に自治会を中心とした「つながり」の部分が少ないかと感じました。お祭りなどが掲載されていますが、自治会活動がもう少し入るといいかと思います。自治会を中心とした「つながり」を地域では目指していくということがちょっと弱いのかなという気がします。

(村井委員長) 「キーワード」欄に掲載があるにもかかわらず、具体例の掲載が少ないのではないかというご指摘です。これは検討対象として頂きたいと思います。

(基本目標2について)

(市木委員) 「具体的な取組」の区役所の欄に、同じ取組が記載され、別の事例が提示されていることについては、説明を加えたほうがいいのかと思います。また、区社協の欄に、区社協が目指す目標が一文でアピールがされているのはとてもよい書き方だと思います。もし、区社協のような「一言アピール」が、他の欄でも掲載が可能であれば、このページを見たときに理解しやすいかなと思いました。

(村井委員長) 地域の欄についてはこの委員会で考えることになるかもしれません。他の欄については何とかなるのかなという気がします。一つのはっきりとしたスローガン、もしくはミッションが書かれた中での展開論となりますので、いいアイデアかと思えます。いわゆる人材を育成するという支援システムや、人材が育成される前の普及啓発、また人材が活躍できる支援体制のようなものが軸となされているかと思えます。担い手がない、世代が交代しないというのが地域の中での悩ましい問題、子育て活動に出向いても、地域の活動に行ってもどこへ

行っても同じ人しかいないという事象が起きている中で、そろそろいろいろな人たちが少しでもかかわって頂きたいというのが目標だと思います。大前提としては人材育成のための教育とか学習の機会をきちんとつくることと、その人たちがきちんと活動できるような支援、また、団体としていく支援も重要で、それがNPOだとか、地域活動としてそこで仕事として頑張っていけるという基盤づくりというのがあります。指定管理者選定の際によくある話ですが、地域の人たちが指定管理者になることが一番の理想像だといわれています。地域で育ったNPOが指定管理を行うという状況です。大手の組織が指定管理を行っても実は地域のことをよく知らないという事態になるともったいない部分があります。地域の理想を求めていくためにも、ロードマップづくりや支援というものが地域福祉の基盤づくり中ではとても重要なことです。組織化という言葉、ひとりひとりの力も発揮していけるようになることが必要だけれども、それが組織化されて、人材・担い手として大きな動きになっていく。それが結果的には「つながり」ということになっていくかもしれませんが、そのような議論も必要かと思います。

(基本目標3について)

(松岡委員)例えば基本目標2で育成を行ったボランティアさんを活かしていく「場」、あるいはその仕掛けや仕組みといったもの、この基本目標3での「場」という中ではそのような意味の「場」、ボランティアを行いたいと思ったときにその気持ちを活かせる「場」も必要かと思います。ボランティアを行いたい人が活動の「場」にたどり着けない、あるいは、何ができるのか自分の中で定まらない状態のままとなってしまう場合があります。普通は講座から始まるかと思いますが、ここではこれができます、その次にはこのようなことができますといった「道」がないと、ボランティアは続かないと思います。その意味での「機会」や「場」をこの目標に含めていただければと思います。

(村井委員長)コーディネーションの意味かと思います。せっかくやろうと思ったときにコーディネートが適切に行なわれないと上滑りしてしまいます。活動をしよと思う人を適切な活動へとつなぐ支援や仕組みづくりもクローズアップして頂きたいと思います。人材育成講座などからすぐに活動へとつながらないケースがよく見受けられます。また、コーディネーションに失敗したボランティアグループが消滅し、コーディネーションに成功したグループはいまでも活動しているという事例もあります。

(市木委員)キーワードの欄に「参加を促進し、支援する仕組みづくり」という言葉を追加しておくのもいいのかと思います。

(基本目標4について)

(村井委員長)一人暮らしや孤立化、孤独死、無縁死、無縁社会と呼ばれるようなことが近年おきています。災害だけでなく、どちらかというところも孤独とか、つながりのない人につながりをつくるというようなところも重視されているところかと思えます。つながりの部分で申し上げますと自殺の問題もあるかと思えます。また、「広報」には常にセットで「広聴」というものがあります。「聴く」ということを伴わないと、「発信」する情報には意味がないかと思えます。ニーズがないところ

での発信は独りよがりになってしまう恐れがあります。必要とされる情報をいかに発信するかということです、その工夫が必要かと思ひます。

(松岡委員) 例へば各種のチラシが置いてあつても、受け手にとっては自分に必要なものとは感じられない場合があります。情報もコーディネーションだと思ひます。入手した情報を単純に集約・発信するのではなく、もうひと工夫に思ひいたることだと思ひますし、それが可能となる人材の育成の問題かと思ひます。具体的な取組として地域の中でもやつていくことができたらと思ひます。

(村井委員長) 地区に密着した情報を集約して出すとか、児童、高齢、障がい別に情報を集約して出すなど、集約の仕方を工夫して地域や関係機関に伝えていくことが重要ですし、区役所や区社協、ケアプラザ、また地域のいづれにおいてもそのようなことを意識した方法や取組が必要とされているかと思ひます。

(基本目標5について)

(村井委員長) 「区社協」の取組について、防災に関する取組のみが展開していますので、孤独死とDV、虐待防止、つながりづくりなどを検討対象としていただければと思ひます。

(松浦委員) 「具体的な取組」の「地域」の欄について、健康づくり関係の事例が紹介されているところの取組内容は関係性がよくわからないのですがいかがでしょうか。

(事務局) 記載の誤りですので訂正をお願いします。正しくは「身近な地域でいつまでもいきいきと暮らせるよう、自主的な健康づくり活動を広げていきます。」となります。

(村井委員長) バリアフリーやユニバーサルデザインという言葉がこの基本目標5には入っておりませんが、これらとの連携が必要かと思ひます。障がいのある方の生活のしづらさや、安心、健康のあり方といったところもあるかと思ひます。あるいはノーマライゼーションというようなこともこの目標の基盤となるのかと思ひます。

(市木委員) キーワードの欄に「地域全体での取組」とありますが、意味がどりづらいかと思ひますので検討をお願いします。

(中島委員) 基本目標5のねらいには、地域コミュニティーをつくるための一つのツールという意味合いがあるかと思ひます。ハード的なものの整備が進む中で、地域にソフト的なところがないと取組が生きてこない、地域での人材づくりが重要だと思ひます。行政からの指示のみではやらされ感につながってしまいますので、それを達成感につながるようにもつて行く必要があるかと思ひます。

(村井委員長) 災害に関する取組は各所で頑張つて行われているという実態があり、そこからそれらの取組を活かすための支援策をもつと充実して示していかなければならないということ、また同時に、そのような基盤が、災害だけでない他の分野、見守りネットワークや相互支援などにも伝わっていくのかと思ひます。災害が目立ちすぎている面があるので、もう少しバランスをとりたいたと思ひます。つながりのところに高齢者の孤独死というテーマがでてきますが、孤独、孤立、見守りなどができるような環境基盤を作つていくことが重要だと思ひます。基本目標のページについてはこのようなところかと思ひます。

(事務局) 明らかな誤植については素案に反映させるとともに、課題などについては

引き続き検討を行なってまいります。

(3) 第2期計画の推進体制等について

資料6に沿って事務局から説明

(説明概要)

- ・ 地区別計画の推進について、新たに「地区別計画推進委員会」の設置を地域に依頼する。また、地区支援チームの取組を継続する。
- ・ 区計画を含めた第2期計画の推進については「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が継続して取り組む。
- ・ 来年度のスケジュールや「地域課題チャレンジ提案事業」を説明

(村井委員長) 第2期計画の推進について、特に地区別計画推進委員会の設置について、委員の皆様のご意見を頂きたいと思います。地域課題チャレンジ提案事業での予算措置、そして行政の支援を受けることでの地域での信頼度のアップなどの効果が見込まれるかと思ひます。もう一つはスケジュールの件ですが、地区別計画推進委員会が各地区で開催された後にプラン推進策定委員会が開催されるという段取りかと思ひます。プラン推進策定委員会の委員は残留ということでしょうか。

(事務局) 委員の皆様は任期は3年、平成23年8月末までとなっております。

(村井委員長) 策定に携わっていない方が参加しても評価はできるかもしれませんが、推進母体としてはなかなか動きにくいかと思ひます。まだ先の議論かと思ひますがぜひ継続ということをお願いいただければ幸いです。地区別計画推進委員会についてですが、まず一つ目として、11地区の連合自治会、地区社協単位で設置することについてご意見は無いでしょうか。今回、地区別計画の推進がポイントですので、地区別での委員会を推進母体としていくのが妥当かと思ひます。もっといふならばそれぞれの小学校圏域などで部会をつくるなどの方策は自由にやっただくことはかまわないことかと思ひます。二つ目として、委員会は原則として30人以内で組織するという点です。実はここが重要な点で、行政がバックアップしようというところで「30人」というのがひとつの基盤かと思ひますが、現在の策定委員会が十数人ですから、おおよそ倍の規模になるかと思ひます。地域で推進を行なう方がメンバーとしてもっと入って頂き、沢山の人の力のかかわりを増やしていくことが重要かと思ひます。三つ目として、委員の構成ですが、連合自治会や地区社協、民生委員・児童委員など、そして公募の委員となっております。この公募は絶対必要な項目かと思ひます。今回の基本目標のページに登場してきたいろいろな要素をはっきりと明文化して、関係する人たちにも参加を促して行きたいというのはい出していく必要があるかと思ひます。例えば、基本目標5の防災というテーマがあれば地域の自主防災組織のメンバーに加わって頂きたいですし、学校との連携というテーマがあれば、学校関係者もはずせないのではないかと思ひます。また、「地域の活動団体の代表者」とありますが、代表でなくても参加が可能になるようにご検討いただければと思ひます。代表者の方は忙しすぎるので、代表者の委任を受けた人や、実際に動ける人も参加できる仕組みのほうがいいかと思ひます。地区の実状に合わせての選出とあります。今回も連合自治会に依頼する形になるかと思ひますが、公募の扱い・考え方を大事にして頂きたいと思ひます。連合自治会が検討される際には、広く意見を集めて頂きた

いという願いはできるかと思います。事務局が毎年作成してきた「地域の取り組み概況」には地域でのさまざまな取組が記載されていますが、その取組に係わっている方々にぜひ参加していただかないと、本当にもったいないことだと思います。またこれは区社協へのお願い事項ですが、地区の推進活動を共同募金の使い道として検討する機会をつくって頂きたいと思います。私も学生と一緒に活動している共同募金の取組の中で、「地域の福祉活動のために使われる共同募金にご協力をお願いします。」と呼びかけています。まさに地域住民が主体となって自らの地域を改善するという動きを考えていく中で、地区別計画の推進の中でさまざまな事業を企画した際には、区社協の力をお借りしたい、検討対象としていただきたいと希望しています。

(中島委員) 今後検討していただくチャレンジ提案事業での申請者については、地区別計画推進委員会が対象となるのでしょうか。

(事務局) 第2期計画の推進に合致すればとことで、可能な限り広く募集を行ないたいと考えております。次回の委員会では検討結果をご報告できるかと思います。

(村井委員長) 柔軟性をもった仕組みにしていいただければと思います。あと、今回の推進については、地区毎にあるケアプラザの存在とか役割、主体性をもつての地域と密に調整を行なうというような機能が重要になってくるかと思います。区社協は地区社協と連携して事業を行なっていますし、区役所が地域に出すぎるというよりは、ケアプラザを通しての地域とのつながりを強くしていくという流れのほうが、本来のシステムからすれば違和感がないかと思います。ケアプラザが地区毎のこのような問題解決に向けて事業を展開していく、また、ケアプラザの支援体制を区役所としては強化していくという色合いのほうが未来に向けての筋論からすると正しい動きかと思います。また重要なのは、この地区別計画推進委員会から動きが起きること、地域からいろんなムーブメントが起きること、実動部隊として動くこと、地区社協と強く動きが合って、お互いに事業の連携ができるとか、場合によっては自治会の福祉部として位置づけられるなど、そのような実動性のある形にしていけないかと思っています。この地域福祉保健計画は第2期のあと、第3期、第4期と続いていくものですので、地域の中で当たり前の基盤として、この委員会が一つの社会資源として存在するようなビジョンを持っていいただければと思っています。自治会や地区社協、民児協、老人会などと連携し、これまでの活動と一体となり、地域の中で重要な担い手の一つとして存在してほしいと希望します。

(4) その他

(事務局から報告)

- ・緑区民まつり（10月）でのPR活動の報告（のぼり作成、缶バッジ配布など）
- ・次回の第4回委員会では、新たに作成する本冊子や概要版、リーフレットについてご報告したい。

(村井委員長) 素案表紙の説明で、「地域福祉活動計画」という文字を削除し、「地域福祉保健計画」に一本化するという話があったかと思いますが、同じく素案表紙の説明文の中で、「区民・事業者・行政」という表現について、この中に「社協」という文字を追加するのはいかがでしょうか。表紙の下段に区社協の名前は出ていますが、一体的に活動しているということを明文化しておいたほうが混乱はな

いのかなと思いますのでご検討をお願いします。また、1月に予定されています
緑区社会福祉大会について、今年度は私が講演を行なうこととなっておりますが、
地域の活動を、特に地区別計画をPRしたいということで準備を進めております
が、なかなか難しいという話を聞いておりました、これから再度、呼びかけてい
くことになるかと思いますが、委員の皆様が所属する地域で行なわれている活動
の発表を加味して行きたいと思っております。

3 閉会

<次回の日程について>

平成23年2月23日(水) 午前9時30分～11時30分

緑区役所第1会議室にて